

## 令和5年版 治山林道必携 積算・施工編 の訂正について（ご案内）

お客様におかれましては、当協会発行の書籍をご利用いただきありがとうございます。

さて、令和5年8月に発行いたしました見出しの書籍につきましては、訂正を要する事項が判明しましたので、以下のとおり謹んでお知らせ致します。

皆様にはご不便をおかけしますこととお詫び申し上げます。

### （訂正箇所） 上巻 167 ページ 目次

（誤） 1-11 構造物取りこわし工

（正） 1-11 **コンクリート**構造物取りこわし工

### （訂正箇所） 上巻 174 ページ 標準歩掛 第1編 目次

8-18 法面工（仮設用モルタル吹付工） の次行

（追加） 8-19 **濁水処理工**…………… 769

### （訂正箇所） 上巻 189 ページ 標準歩掛 第1編 第1 1-3 3 (1) 表3.1

施工土量「林道工事における5,000 m<sup>3</sup>未満」の行 土質名2段目

（誤） 岩塊・玉石・**軟岩(I)A**

（正） 岩塊・玉石・**破碎岩**

### （訂正箇所） 上巻 191 ページ 標準歩掛 第1編 第1 1-3 3 (2) ②

表3.5 欄外脚注

（追加） **（注）本歩掛は、掘削までとし、法面整形は含まない。**

### （訂正箇所） 上巻 223 ページ 標準歩掛 第1編 第1 1-9 1-9-1

表外備考2

（誤） ……別途**積算**することができる。

（正） ……別途**考慮**する。

### （訂正箇所） 上巻 227 ページ 標準歩掛 第1編 第1 1-11

（誤） 1-11 構造物取りこわし工

（正） 1-11 **コンクリート**構造物取りこわし工

### （訂正箇所） 上巻 303 ページ 標準歩掛 第1編 第3 3-4 3-4-2 4-(2)

（誤） ひび割れ補修工（**充てん**工法）1 構造物当たり単価表

（正） ひび割れ補修工（**低圧注入**工法）1 構造物当たり単価表

(訂正箇所) 上巻 331 ページ 標準歩掛 第1編 第4 4-1 4-1-4 (7)

9) 空気圧縮機/発動発電機/ホイールローダの行 指定事項欄

(誤)

燃料消費量	→105
賃料数量	→1.75
燃料消費量	→50
賃料数量	→1.00
運転労務数量	→1.00
燃料消費量	→15
賃料数量	→1.55

(正)

燃料消費量	→81
賃料数量	→1.71
燃料消費量	→36
賃料数量	→1.71
運転労務数量	→0.80
燃料消費量	→15
賃料数量	→1.58

(訂正箇所) 上巻 335 ページ 標準歩掛 第1編 第4 4-1 4-1-5 (3)

表中 発動発電機の行 規格欄

(誤) 37/45kVA

(正) 45kVA

(訂正箇所) 上巻 350 ページ 標準歩掛 第1編 第4 4-2 4-2-3 (3)

表中 発動発電機の行 摘要欄

(誤) ベルトコンベア、電気ドリル、計量器等の動力源

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 366 ページ 標準歩掛 第1編 第4 4-3 4-3-1 (3)

表中 発動発電機の行 摘要欄

(誤) ベルトコンベア、ハンマドリル、ポンプ等の動力源

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 388 ページ 標準歩掛 第1編 第4 4-7 4-7-2 (3)

補正係数表

(誤)

補正係数

斜面勾配	(略)	1 : 1.0 ~ 1 : 0.5	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)

(正)

斜面勾配による補正係数

斜面勾配	(略)	1 : 1.0 ~ 1 : 0.5 (1 : 1.0 超、1 : 0.5 以下)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)

(訂正箇所) 上巻 447~8 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-9 5-9-4 (3)

2) 備考1及び2

(誤) 備考 1 アンカー設置工には、削工、アンカー打込み及び充填剤注入等の一連の作業を含む。

2 諸雑費は、空気圧縮機、削岩機等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(正) 備考 1 アンカー設置工には、削工、アンカー設置、充填剤注入等の一連の作業を含む。

2 諸雑費は、削岩機、打込機、空気圧縮機等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(訂正箇所) 上巻 449 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-9 5-9-4 (4) 3)

(誤) アンカー設置工(土中用) 1本当たり単価表

(正) アンカー設置工(土砂用) 1本当たり単価表

(訂正箇所) 上巻 457 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-9 5-9-5 (3) 3)

オ 表中規格欄

(誤)

名称	規格
リングネット	φ2.4×50×50
ワイヤメッシュ	

(正)

名称	規格
リングネット	
ワイヤメッシュ	φ2.4×50×50

(訂正箇所) 上巻 478 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-17 5-17-2 (4)

備考

(誤) 2 吸出防止材の……………

(正) 2 網パネル、クリップ等は、必要数量を計上する。

3 吸出防止材の……………

(訂正箇所) 上巻 479 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-17 5-17-2 (6)

1) 表中 大型ふとんかごの行 (修正及び行の追加)

(誤)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
大型ふとんかご	網パネル	m <sup>2</sup>		〃

(正)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
網 パ ネ ル		m <sup>2</sup>		〃
付 属 品		式	1	〃

(訂正箇所) 上巻 480 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-18 5-18-1

表中 職種及び数量欄 (各控長3箇所)

(誤) 洞込コンクリート量

(正) 洞込栗石量

(訂正箇所) 上巻 482 ページ 標準歩掛 第1編 第5 5-18 5-18-3

表中 職種及び数量欄 (各控長3箇所)

(誤) 洞込コンクリート量

(正) 洞込栗石量

(訂正箇所) 上巻 548 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-3 7-3-1

表中 4行目 (小計) 数量欄

(誤) 1.32 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 550 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-3 7-3-2

表中 4行目 (小計) 数量欄

(誤) 0.92 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 552 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-3 7-3-3

表中 3行目 (小計) 数量欄

(誤) 1.26 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 554 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-3 7-3-4

表中 3行目 (小計) 数量欄

(誤) 0.86 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 556 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-3 7-3-5

表中 3行目 (小計) 数量欄

(誤) 0.77 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 571 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-8 7-8-1

表中 3行目 (小計) 数量欄

(誤) 0.40 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 573 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-8 7-8-2

表中 5行目 (小計) 数量欄

(誤) 0.42 m<sup>3</sup>

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 578 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-10 7-10-1 (1)

(誤) 本歩掛は、**溪間構造物のうち、谷止工、床固工等治山ダムの本体及び治山ダム本体と一体的に施工される場合の側壁、間詰等のコンクリート型枠に、内部支持材(引張材を含む。)に丸太を現地で固定して組み立てる丸太残存型枠を用いる場合の型枠施工に適用する。**

(正) 本歩掛は、内部支持材(引張材を含む。)に丸太を現地で固定して組み立てる**残存型枠工で、治山ダムの本体及び本体と一体的に施工される場合の側壁、間詰等のコンクリート構造物を施工する場合に適用する。**

(訂正箇所) 上巻 580 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-10 7-10-2 (1)

(誤) 本歩掛は、**土留工及び擁壁工の無筋構造物施工にかかる残存型枠工であって、内部支持材(引張材を含む。)に丸太を現地で固定して組み立てる丸太残存型枠を用いる場合の型枠施工に適用する。**

(正) 本歩掛は、内部支持材(引張材を含む。)に丸太を現地で固定して組み立てる**残存**

型枠工で、土留及び擁壁のコンクリート構造物を施工する場合に適用する。

(訂正箇所) 上巻 582 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-10 7-10-3 (1)

(誤) 本歩掛は、無筋構造物施工にかかる平均設置高 15m以下の残存型枠であって、工場でパネル状に製作した型枠を現地で組み立てる場合に適用し、木製パネルの規格は、縦 0.30~0.90m、横 1.5~1.9m程度とする。

(正) 本歩掛は、工場でパネル状に製作した型枠を現地で組み立てる残存型枠工で、治山ダム等のコンクリート構造物を施工する場合に適用する。

まく板パネルの規格は、縦 0.30~0.90m、横 1.5~1.9m程度を標準とする。

(訂正箇所) 上巻 584 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-10 7-10-4

(誤) 7-10-4 (参考歩掛) まく板パネル型枠工

(1) 適用範囲

本歩掛は、無筋構造物施工にかかる平均設置高 15m以下の残存型枠であって、工場でパネル状に製作した型枠を現地で組み立てる場合に適用し、木製パネルの規格は、縦 0.30~0.90m、横 1.5~1.9m程度とする。

(2) (略)

(3) 施工歩掛

まく板パネル型枠の組立て・設置、解体・撤去に要する施工歩掛は、「第1編 共通工 3-2-3-(1) 一般型枠の施工歩掛」の鉄筋・無筋構造物を適用し、諸雑費率は19%とする。

諸雑費にはまく板パネル材を含まないので、必要量を別途計上する。

(4) 表中

まく板パネル型枠		m <sup>2</sup>		〃
----------	--	----------------	--	---

(正) 7-10-4 まく板パネル型枠工

(1) 適用範囲

本歩掛は、工場でパネル状に製作した型枠を現地で組み立てる型枠工で、治山ダム等のコンクリート構造物を施工する場合に適用する。

まく板パネルの規格は、縦 0.5~1.5m、横 1.8~4.0m程度を標準とする。

(2) (略)

(3) 施工歩掛

まく板パネル型枠の組立て・設置、解体・撤去に係る一連の工程の施工歩掛は、次表とする。

まく板パネル型枠工施工歩掛

(100 m<sup>2</sup>当たり)

名 称	単 位	数 量	摘 要
-----	-----	-----	-----

世 話 役 人		3.1	
型 枠 工	〃	15.7	
山林砂防工(普通作業員)	〃	10.0	
ま く 板 パ ネ ル	m <sup>2</sup>	100/n	nは転用回数
諸 雑 費 率	%	19	

- 備考 1 諸雑費は、組立支持材及び電気ドリル、電動ノコギリ、まくパネルの持上(下)げに係る機械経費、組立支持材、はく離剤等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 2 まく板パネルの転用回数は、2回以上とする(転用しない場合は1回)。
- 3 まく板パネルの割増しが必要な場合は、別途考慮する。
- 4 現地でパネル製作を行う場合は、別途積算する。
- 5 上記歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

(4) 表中

ま く 板 パ ネ ル		m <sup>2</sup>	〃 転用回数 回
-------------	--	----------------	----------

**(訂正箇所)** 上巻 586 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-10 7-10-5

(誤) 7-10-5 **(参考歩掛)** 角材式残存型枠工

(正) 7-10-5 角材式残存型枠工

**(訂正箇所)** 上巻 589 ページ 標準歩掛 第1編 第7 7-12 7-12-1

(誤) 7-12-1 **(参考歩掛)** 木製治山ダム工

(1) (略)

(2) 図中 土砂埋戻し

(3) 2) 中詰め

表中規格欄2段目 クローラ型 クレーン機能付 排出ガス対策型  
山積 0.8 m<sup>3</sup> (平積 0.6 m<sup>3</sup>) 2.9 t 吊

(4) 表

種 別	丸太材	中詰材
補正係数	+0.08	+0.04

(5) 2) 中詰め 1 m<sup>3</sup>当たり単価表

表中規格欄2段目 クローラ型 排出ガス対策型  
山積 0.45 m<sup>3</sup> (平積 0.35 m<sup>3</sup>)

3) 表中規格欄2段目 クローラ型 排出ガス対策型  
山積 0.45 m<sup>3</sup> (平積 0.35 m<sup>3</sup>)

(正) 7-12-1 木製治山ダム工

(1) (略)

(2) 図中 埋戻し

(3) 2) 詰石

表中規格欄 2 段目 クローラ型 排出ガス対策型  
山積 0.8 m<sup>3</sup> (平積 0.6 m<sup>3</sup>)

(4) 表

種 別	丸太材	詰石材
補正係数	+0.08	+0.04

また、必要に応じて、目潰し材(採石)を用いるものとするが、目潰し材の使用数量は、詰石材の使用量の 20%を標準とする。

(5) 2) 詰石 1 m<sup>3</sup>当たり単価表

表中規格欄 2 段目 クローラ型 排出ガス対策型  
山積 0.8 m<sup>3</sup> (平積 0.6 m<sup>3</sup>)

3) 表中規格欄 2 段目 クローラ型 排出ガス対策型  
山積 0.8 m<sup>3</sup> (平積 0.6 m<sup>3</sup>)

**(訂正箇所)** 上巻 594 ページ 標準歩掛 第 1 編 第 7 7-12-2

6 単価表 (3) 詰石 バックホウ運転 規格欄

**(誤)** クローラ型 クレーン機能付

**(正)** クローラ型

**(訂正箇所)** 上巻 610 ページ 標準歩掛 第 1 編 第 8 8-4 8-4-1

**(誤)** (3) 2) 備考

1 治山ダム工においては、排水を要する区域の面積 (主として堤底面積) × 0.30m を標準として計上する。

2~4 (略)

(4) 2) 備考

1 歩掛は、運転日数当たり……………

**(正)** (3) 2) 備考

1 治山ダム工においては、排水量は、排水を要する区域の面積 (主として堤底面積) × 0.3m を標準として計上する。

2~4 (略)

5 工期、現場の条件により、工事用水中ポンプの動力源が商用電源の場合は、別途考慮する。

(4) 2) 備考

1 歩掛は、運転日当たり……………



(訂正箇所) 上巻 614 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-4 8-4-2

(4) 2) 備考 1

(誤) 歩掛は、運転日数当たり……………

(正) 歩掛は、運転日当たり……………

(訂正箇所) 上巻 619 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-5 (4) 1) 表中

ラフテレーンクレーンの行 規格欄

(誤) 排出ガス対策型 (第2次基準値)

(正) 排出ガス対策型 (第3次基準値)

(訂正箇所) 上巻 625 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-8 8-8-1 (6)

仮囲い10m当たり仮設材損料表中 損料 (円) 欄

(誤) 173

(正) 206

(訂正箇所) 上巻 628 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-8 8-8-2 4 (2)

表4. 2 脚注 2

(誤) 諸雑費は、仮囲い仮設材等の費用であり、労務費と機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、手すり先行型枠組足場を使用する場合は、( ) 書きの値を使用するものとする。

(正) 諸雑費は、仮囲い仮設材等の費用であり、労務費と機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(訂正箇所) 上巻 628 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-8 8-8-2 4

(削除) (3) ※標題及び表を含みます。

(訂正箇所) 上巻 637 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-9 (3) 表中規格欄

※3箇所あります。

(誤) 超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) ……………

(正) 排出ガス対策型 (第3次基準値) ……………

(訂正箇所) 上巻 655 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-11 8-11-1 3 (3)

① ア 表3. 9

(誤)

25H型	45H型	50H型	H200
27	49	47	28

23	35	33	26
20	27	25	24
17	21	20	23
15	17	15	21
13	14	13	
12	12	11	

(正)

25H型	H200
27	28
23	26
20	24
17	23
15	21
13	
12	

(訂正箇所) 上巻 656 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-11 8-11-1 3 (3)

① イ 表3.10

(誤)

25H型	H200
50	56
37	48
30	42
24	
19	
16	
13	

(正)

25H型	45H型	50H型	H200
50	49	47	56

37	35	33	48
30	27	25	42
24	21	20	
19	17	15	
16	14	13	
13	12	11	

(訂正箇所) 上巻 730~732 ページ 標準歩掛 第1編 第8 8-14 6~8

(誤) 6 部材質量

(1) 表 6. 1 部材質量算出方法

(2) 4行目 …… (式 6. 1)

7 単価表

(正) 6 仮設材賃料等に係る修理費及び損耗費等の取扱いについて

6-1 H形鋼等の1現場当たり修理費及び損耗費等について

H形鋼等の1現場当たり修理費及び損耗費等については次式のとおりとする。

$$Y = a \cdot b$$

Y : H形鋼等の1現場当たり修理費及び損耗費 (円/t)

※覆工版は単位を (円/m<sup>3</sup>) に読み替える。

a : 係数 b : 市場価格

表 6. 1 H形鋼等の1現場当たり修理費及び損耗費算定のための係数及び市場価格

名 称		補助工法	係数(a)	市場価格(b)
H形鋼	山留主部材	—	1.09	鋼製山留材 整備費
	覆工版	—	1.22	覆工版 整備費

(注) 1 修理費及び損耗費は、整備費、修理費 (特別ケレン・穴埋め・曲がり直し等) 切断による短尺補償、打込による破損を含む。

2 修理費及び損耗費は、土質、打込又は引抜き等の難易等の作業条件を十分考慮して適用を決定する。

3 補助工法とはウオータージェット又はアースオーガ併用工法、硬質地盤専用工法、プレボーリング工法等をいう。

6-2 山留主部材等の副部材について

副部材賃料 (1現場当たり修理費及び損耗費を含む。) は次式のとおりとする。

$$Y = a \cdot b$$

Y : 副部材の賃料 (円/t)    a : 係数    b : 市場価格

表 6. 2 副部材の賃料 (1 現場当たり修理費及び損耗費を含む。) 算定のための係数及び市場価格

名 称		係数 (a)	市場価格 (b)	
副部材 (A)	基礎価格	1.21	鋼製山留材 部品 不足分弁償金(新品)	
	供用 1 日当たり 賃料(日)	90 日以内	1.48	鋼製山留材 部品 賃料
		180 日以内		
		360 日以内		
		720 日以内		
	1080 日以内	1.47		
	1 現場当たり修理費及び損耗費	1.13	鋼製山留材 部品 整備費	
副部材 (B)	1 現場当たり修理費及び損耗費	1.01	鋼製山留材 部品 不足分弁償金(新品)	

## 7 部材質量

(1) 表 7. 1 部材質量算出方法

(2) 4 行目 …… (式 7. 1)

## 8 単価表

(訂正箇所) 上巻 774 ページ 標準歩掛 第 1 編 第 9

### (誤) 9-3 区画線工

9-4 防護柵設置工 (ガードレール)

9-5 防護柵設置工 (横断・転落防止柵)

9-6 防護柵設置工 (落石防止柵)

9-7 防護柵設置工 (落石防止網)

9-8 防護柵設置工 (ガードパイプ)

9-9 道路標識設置工

9-10 道路付属物設置工 (略)

### 9-11 排水構造物工

(1) U型(落蓋型、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む)水路

(2) 自由勾配側溝

(3) 蓋板

### 9-12 コンクリートブロック積工

9-13 法面工 (略)

9-14 吹付砕工

- 9-15 構造物とりこわし工
- 9-16 軟弱地盤処理工 (略)
- 9-17 鉄筋挿入工 (ロックボルト工)
- (正) 9-3 防護柵設置工 (ガードレール)
- 9-4 防護柵設置工 (横断・転落防止柵)
- 9-5 防護柵設置工 (落石防止柵)
- 9-6 防護柵設置工 (落石防止網)
- 9-7 防護柵設置工 (ガードパイプ)
- 9-8 道路標識設置工
- 9-9 道路付属物設置工 (略)
- 9-10 法面工 (略)
- 9-11 吹付砕工
- 9-12 軟弱地盤処理工 (略)
- 9-13 鉄筋挿入工 (ロックボルト工)

(訂正箇所) 上巻 793 ページ 標準歩掛 第2編 第1 4 (1) 表4. 1 表中  
作業種別 ルーズな状態の積込 土質名欄 ※8箇所あります。

- (誤) 砂・砂質土・粘性土・礫質土・軟岩(I)A
- (正) 砂・砂質土・粘性土・礫質土

(訂正箇所) 上巻 819 ページ 標準歩掛 第2編 第2 2-6 2-6-2 3  
表中 規格欄

- (誤) 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 25 t 吊
- (正) 油圧伸縮ジブ型 (第3次基準値)・低騒音型・排出ガス対策型 25 t 吊

(訂正箇所) 上巻 873 ページ 標準歩掛 第2編 第3 3-14 (3) 表中  
暗渠管の行 数量欄

- (誤) 10.1
- (正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 874 ページ 標準歩掛 第2編 第3 3-14 (4) 表中  
暗渠管の行 数量欄

- (誤) 10.1
- (正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 875 ページ 標準歩掛 第2編 第3 3-14 (5) 表中

暗渠管の行 数量欄

(誤) 10.1

(正) (空欄)

(訂正箇所) 上巻 878 ページ 標準歩掛 第2編 第3 3-15 2 表中  
摘要欄 4段目

(誤) 袋詰込み

(正) 袋詰め込み

(訂正箇所) 上巻 901 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-2 (10) 2)

(誤) 小口径ボーリング歩掛と同じとする。

(正) 「4-1 小口径ボーリング (10)-2 給水ポンプ」による。

(訂正箇所) 上巻 901 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-2 (11) 1)

表中 表題部 4・5列上段

(誤) (20m当たり)

(正) 継手挿入 (20m当たり)

(訂正箇所) 上巻 902 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-2 (11) 3)

(誤) 小口径ボーリング歩掛と同じとする。

(正) 「4-1 小口径ボーリング (11)-3 配管用炭素鋼鋼管挿入歩掛」による。

(訂正箇所) 上巻 902 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-2 (12)

(誤) 小口径ボーリング歩掛と同じとする。

(正) 「4-1 小口径ボーリング (12) 機械据付、足場組立撤去歩掛」による。

(訂正箇所) 上巻 918 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-4 4-4-1 (6) ア  
備考

(誤) 日当たり施工量の……………

(正) 掘削日当たり施工量の……………

(訂正箇所) 上巻 923 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-4 4-4-1 (11)

(誤) 6) 掘削作業設備組立・解体1基1回当たり単価表

(正) 6) 掘削作業設備据付・解体1基1回当たり単価表

(訂正箇所) 上巻 930 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4-4 4-4-2 (9) 4)

クローラクレーン運転の行 摘要欄

(誤) (8)－1)、3)

(正) (8)－1)、3) **機械賃料**

(訂正箇所) 上巻 949 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4－7 (6) 表中  
ダウンザホールハンマ規格の行 各欄 **※4箇所あります。**

(誤) 掘削**杭**径

(正) 掘削**孔**径

(訂正箇所) 上巻 957 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4－7 (11)

やぐらの設置・撤去歩掛 (索道使用の場合)

表中 ウインチ運転の行 摘要欄

(誤) **解放**型

(正) **開放**型

(訂正箇所) 上巻 963 ページ 標準歩掛 第2編 第4 4－7 (14) 6) 表中

ウインチ (やぐら設置・撤去用) の行 規格欄

(誤) 開放型・電動単動……………

(正) 開放型(**電動**)・単動……………

(訂正箇所) 上巻 985 ページ 標準歩掛 第2編 第5 5－4 (3) 3) 表中

とび工の行及び山林砂防工の行 数量欄 **※2箇所あります。**

(誤) **0.20**

(正) 20

(訂正箇所) 上巻 1005 ページ 標準歩掛 第3編 第2 2－1 2－1－2 5

表 5. 1 欄外 (注) 4 の次の行

(追加) **5 耐雪型には、補助支柱の設置手間を含むため、補助支柱の無いものは標準型を使用すること。**

(訂正箇所) 上巻 1036 ページ 標準歩掛 第3編 第3 3－1 4 (1) 表中

北海道の行 所在地欄

(誤) 釧路市、北広島市、室蘭市、**石狩市**

(正) 釧路市、北広島市、室蘭市

(訂正箇所) 上巻 1079 ページ 標準歩掛 第3編 第3 3－4 (8) 表中

編成人員（人）の欄

(削除) 普通作業員 1

(訂正箇所) 上巻 1118 ページ 標準歩掛 第3編 第3 3-4 (16) 2)

表及び備考

(誤)	機 械 名	規 格	摘 要
	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	架設面積 1,000 m <sup>2</sup> 未満
		油圧伸縮ジブ型 16t 吊	架設面積 1,000 m <sup>2</sup> 以上

備考 1 トラッククレーンの規格は、床版上より架設する場合であり、現場条件により本表により難しい場合は、現場条件に適合した機種を計上する。

2 トラッククレーンは、賃料とする。

(正)	機 械 名	規 格	摘 要
	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	架設面積 1,000 m <sup>2</sup> 未満
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 16t 吊	架設面積 1,000 m <sup>2</sup> 以上

備考 1 トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの規格は、床版上より架設する場合であり、現場条件により本表により難しい場合は、現場条件に適合した機種を計上する。

2 トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。

(訂正箇所) 上巻 1143 ページ 標準歩掛 第3編 第3 3-5 6 (4)

(誤) 表 6. 3 諸雑費率

(正) 表 6. 4 諸雑費率

(訂正箇所) 上巻 1160 ページ 標準歩掛 第3編 第3 3-6 4 (2)

(誤) グラウト剤

(正) グラウト材

(訂正箇所) 上巻 1258 ページ 標準歩掛 第4編 2 表中 設定内容欄

(誤) ⑫ 森林整備 下刈 (全刈り (1回刈り及び2回刈り))

(略)

(補正あり) 年2回下刈りの2回目

工 種	作業日当たり標準作業量
下刈 (全刈り)	0.14ha/日
下刈 (筋刈り)	0.430ha/日

(正) ⑫ 森林整備 下刈 (1回刈り及び2回刈り)



(略)

(補正あり) 年2回下刈りの2回目

工 種	作業日当たり標準作業量
下刈 (全刈り)	0.191ha/日
下刈 (筋刈り)	0.581ha/日

**(訂正箇所)** 上巻 1262 ページ 標準歩掛 第4編 2 表中 設定内容欄

⑮ 食害保護資材設置の行 作業日当たり標準作業量の欄

(誤) 104 本/日

(正) 85 本/日

**(訂正箇所)** 上巻 1330 ページ 施工パッケージ 1章 ③ 3 3-1 (2)

表3.2 標題

(誤) 表3.2 (参考) 掘削(ICT)※[ICT 建機使用割合 100%]代表機労材規格一覧

(正) 表3.2 掘削(ICT)※[ICT 建機使用割合 100%]代表機労材規格一覧

**(訂正箇所)** 上巻 1391 ページ 施工パッケージ 2章 ⑥ 3 3-22 (2)

表3.44 標題

(誤) 表3.44 プレキャスト横壁(隔壁)ブロック 代表機労材規格一覧

(正) 表3.44 プレキャスト横帯(隔壁)ブロック 代表機労材規格一覧

**(訂正箇所)** 上巻 1412 ページ 施工パッケージ 2章 ⑨ 3 3-1 (1)

表3.1 標題

(誤) 表3.1 小型擁壁(A) 積算条件区分一覧

(正) 表3.1 小型擁壁 積算条件区分一覧

**(訂正箇所)** 上巻 1413 ページ 施工パッケージ 2章 ⑨ 3 3-1 (2)

表3.4 標題

(誤) 表3.4 小型擁壁(A) 代表機労材規格一覧

(正) 表3.4 小型擁壁 代表機労材規格一覧

**(訂正箇所)** 上巻 1433 ページ 施工パッケージ 2章 ⑫ 3 3-7 (2)

表3.8 標題

(誤) 表3.8 採石投入工 代表機労材規格一覧

(正) 表3.8 採石投入 代表機労材規格一覧

(訂正箇所) 上巻 1491 ページ 施工パッケージ 2章 ㉑ 3 3-1 (2)

表 3. 2 標題

(誤) 表 3. 2 コンクリート削孔(電動ハンマドリル 40mm) 代表機労材規格一覧

(正) 表 3. 2 コンクリート削孔(電動ハンマドリル) 代表機労材規格一覧

(訂正箇所) 上巻 1645 ページ 施工パッケージ 8章 ① 2 2-3 2-3-1

(2) 表 3. 3 標題

(誤) 表 3. 3 型枠の規格

(正) 表 3. 3 箱抜き 代表機労材規格一覧

(訂正箇所) 下巻 3 ページ [最終改正]

(誤) 令和 4 年 3 月 28 日付け 3 林整計第 793 号 令和 4 年 4 月 1 日から適用

(正) 令和 5 年 3 月 24 日付け 4 林整計第 839 号 令和 5 年 4 月 1 日から適用

(訂正箇所) 下巻 72・73 ページ 建設機械経費積算要領 第 2 04 クレーンその他の荷役機械 0401 クローラクレーン 011 [機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型] 規格欄 ～ 換算値欄

(誤) ※ 編注：各データ欄が 1 行分、行ずれしています。

規 格			(略) ～ (略)	換 算 値		
諸元	機械出力 (kw)	機械質量 (t)		(略)	共用 1 日当たり	
					(14) 損料率 (×10 <sup>-6</sup> )	(15) 損料 (円)
	71	22.0	(略)	(略)	1,190	18,000
16t 吊	71	22.6	(略)	(略)	1,190	19,200
22.5	94	39.8	(略)	(略)	1,190	33,700
35～40	102	47.0	(略)	(略)	1,190	40,300
45～50	161	73.8	(略)	(略)	1,190	78,900
80	193	107	(略)	(略)	1,190	107,000
100	195	159	(略)	(略)	1,190	144,000
150						

(正)

規 格			(略) ～ (略)	換 算 値		
諸元	機械出力 (kw)	機械質量 (t)		(略)	共用 1 日当たり	
					(14) 損料率 (×10 <sup>-6</sup> )	(15) 損料 (円)

16t 吊	71	22.0	(略)	(略)	1,190	18,000
22.5	71	22.6	(略)	(略)	1,190	19,200
35～40	94	39.8	(略)	(略)	1,190	33,700
45～50	102	47.0	(略)	(略)	1,190	40,300
80	161	73.8	(略)	(略)	1,190	78,900
100	193	107	(略)	(略)	1,190	107,000
150	195	159	(略)	(略)	1,190	144,000

(訂正箇所) 下巻 176 ページ 建設機械経費積算要領 第2 06 せん孔機械及びトンネル  
工事用機械 0674 油圧転倒装置 025 [移動型] 規格 機関出力(kw)欄

(誤)

走行
1.5

(正)

走行 作業
1.5 6.5

(訂正箇所) 下巻 206～7 ページ 建設機械経費積算要領 第2 10 舗装機械  
1005 ディストリビューター 022 [自走式(トラック架装式)] 450001 の行  
諸元欄、運転1時間当たり(9)損料欄 及び 換算値(15)損料欄

(誤) 4,000 7,990 23,000

(正) 4,000～4,500 6,640 12,000

(訂正箇所) 下巻 206 ページ 建設機械経費積算要領 第2 10 舗装機械  
1007 アスファルトクッカ 100 [トラック架装・バーナ加熱式] 及び 200 [ト  
ラック架装・電気加熱式] 規格 機関出力(kw)欄

(誤)

(走)
191
(走)
191

(正)

(走) (作)
---------

191	15
(走)	(作)
191	63

(訂正箇所) 下巻 260 ページ 建設機械経費積算要領 第2 16 ウインチ類  
1611 電動ホイスト(電動トロリ付) 規格 機関出力(kw)欄

(誤) 110 [低揚程]

巻上
1.0
1.9
2.9
4.0
5.9
9.5
11
6.7×2

130 [高揚程]

巻上
1.0
1.9
2.9
4.0
7.0
9.5
11
6.7×2
7.5×2

(正) 110 [低揚程]

巻上	横行
1.0	0.30
1.9	0.30
2.9	0.30
4.0	0.50
5.9	0.60

9.5	0.50×2
11	0.50×2
6.7×2	0.70×2

130 [高揚程]

卷上	横行
1.0	0.30
1.9	0.30
2.9	0.30
4.0	0.50
7.0	0.70
9.5	0.36×2
11	0.36×2
6.7×2	0.70×2
7.5×2	0.70×2

(訂正箇所) 下巻 274 ページ 建設機械経費積算要領 第2 18 鋼橋・PC 橋架設用仮設  
備機器 1803 門形クレーン 510・520 規格 機関出力(kw)欄

(誤) 510 電動ホイスト [普通型]

卷上
7.0
9.5
11
6.7×2
7.5×2

520 電動ホイスト [ダブルレール型]

卷上
7.0
9.5
11
6.7×2
7.5×2

(正) 510 電動ホイスト [普通型]

卷上	横行
7.0	0.70
9.5	0.36×2

11	0.36×2
6.7×2	0.70×2
7.5×2	0.70×2

520 電動ホイスト [ダブルレール型]

卷上	横行
7.0	0.50×2
9.5	0.36×2
11	0.36×2
6.7×2	0.45×2
7.5×2	0.45×2

(訂正箇所) 下巻 276・278 ページ 建設機械経費積算要領 第2 18 鋼橋・PC 橋架設用  
仮設備機器 1808 巻上機 規格 機関出力(kw) 欄

(誤)

卷上
15
22
11×2
11×2
15×2

(正)

卷上	横行
15	1.5
22	2.2
11×2	2.2
11×2	3.7
15×2	3.7

(訂正箇所) 下巻 292 ページ 建設機械経費積算要領 第2 18 鋼橋・PC 橋架設用仮設  
備機器 1851 二組桁用桁吊り装置 (PC 橋用) 018 [電動2連式] 規格  
機関出力(kw) 欄

(誤)

卷上
5.5×2
7.5×2

7.5×2
5.5×4
5.5×4
7.5×4

(正)

巻上	横行
5.5×2	2.2×4
7.5×2	2.2×4
7.5×2	2.2×4
5.5×4	2.2×4
5.5×4	2.2×4
7.5×4	2.2×4

(訂正箇所) 下巻 294 ページ 建設機械経費積算要領 第 2 18 鋼橋・PC 橋架設用仮設  
備機器 1853 桁吊り門構移動装置 (PC 橋用) 規格 機関出力(kw)欄

(誤)

打上
5.5×1
5.5×1

(正)

打上	走行
5.5×1	1.5×2
5.5×1	1.5×2

(訂正箇所) 下巻 377～382 ページ 建設機械経費積算要領 別表第 3 及び別表第 4

※別添ファイル「必携積算編下巻／373-382p」に差し替えをお願いします。

(訂正箇所) 下巻 775 ページ [最終改正]

(誤) 令和 4 年 3 月 28 日付け 3 林整計第 793 号 令和 4 年 4 月 1 日から適用

(正) 令和 5 年 3 月 24 日付け 4 林整計第 839 号 令和 5 年 4 月 1 日から適用

(訂正箇所) 下巻 856 ページ 森林整備保全事業工事標準仕様書 第 3 編 第 1 章  
第 1 節 3-1-1-7 1. ②

(誤) 工事管理台帳

(正) 電子成果品

(訂正箇所) 下巻 1151 ページ 森林整備保全事業工事標準仕様書 第5編 第6章  
第4節 5-6-4-1 一般事項

(誤) 1. 本節は、(略)

(正) 本節は、(略)

(訂正箇所) 下巻 1335 ページ 出来形管理基準及び規格値 3編 2章 1節 12条  
13条 枝番1 路体盛土工 路床盛土工 測定基準欄

(誤) 施工延長 40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所

(正) 施工延長 40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。

ただし、3次元計測技術を用いた出来形管理を発注者が指定する規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点ごと。基準高は各法肩で測定。

(訂正箇所) 下巻 1432 ページ 出来形管理基準及び規格値 5編 3章 6節 5条  
枝番1 鋼製ダム本体工(不透過型) 測定項目欄

(誤) 幅  $w_1$ 、 $w_2$

(正) 幅  $w_1$ 、 $w_3$

(訂正箇所) 下巻 1830 ページ ICT活用工事(土工)試行積算要領 第2 1 ①表中  
規格欄 2段目

(誤) 山積  $1.4 \text{ m}^3$  (平積  $1.0 \text{ m}^3$ )

(正) 山積  $1.3 \sim 1.5 \text{ m}^3$  (平積  $1.0 \sim 1.2 \text{ m}^3$ )

(訂正箇所) 下巻 1830 ページ ICT活用工事(土工)試行積算要領 第2 1 ②表中  
機械経費欄 2段目

(誤) 損料にて計上

(正) 賃料にて計上

(訂正箇所) 下巻 1855 ページ ICT活用工事(法面工)試行積算要領 【参考】 1 (1)  
表1.1 バックホウ(クローラ型)運転の欄

(誤)

バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 $0.45 \text{ m}^3$ (平積 $0.35 \text{ m}^3$ )	日	0.61
	標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年	〃	0.41



	規制)・クローラ型 (法面バケット付) 山積 0.8 m <sup>3</sup> (平積 0.6 m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9 t		
--	---	--	--

(正)

バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45 m <sup>3</sup> (平積 0.35 m <sup>3</sup> )	日	0.61
------------------------	--	---	------

**(訂正箇所)** 下巻 1856 ページ ICT 活用工事(法面工) 試行積算要領 【参考】 1 (2)

表 1. 2 バックホウ (クローラ型) 運転の欄

(誤)

バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45 m <sup>3</sup> (平積 0.35 m <sup>3</sup> )	日	0.96
	標準型・ICT 施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (2014 年規制)・クローラ型 (法面バケット付) 山積 0.8 m <sup>3</sup> (平積 0.6 m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9 t	〃	0.65

(正)

バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45 m <sup>3</sup> (平積 0.35 m <sup>3</sup> )	日	0.96
------------------------	--	---	------

**(訂正箇所)** 下巻 1857 ページ ICT 活用工事(法面工) 試行積算要領 【参考】 3

(誤) バックホウによる床掘り (作業土工) の日当たり施工量は、次表を標準とする。

(正) 法面整形工 (ICT 施工) の日当たり施工量は、次表を標準とする。

**(訂正箇所)** 下巻 1860 ページ ICT 活用工事(作業土工 (床掘)) 試行積算要領 第 2 3

(1) 式中分母欄

(誤) 作業日当たり標準作業量 (m<sup>3</sup>/日) ×1.09

(正) 作業日当たり標準作業量 (m<sup>3</sup>/日)

**(訂正箇所)** 下巻 1861 ページ ICT 活用工事(法面工) 試行積算要領 【参考】 1 (2)

表 1. 2 標準(平均施工幅 2 m以上)の欄

(誤)

標準 (平均)	バック ホウ	礫質土・ 砂・砂質	標準型・ICT 施工対応型クレーン 機能付き・超低騒音型・排出ガス	m <sup>3</sup>	240	196
------------	-----------	--------------	--------------------------------------	----------------	-----	-----

施工 幅2 m以 上)	(クロ ーラ型 ) 運転	土・粘性 土	対策型(2014年規制)山積0.8 m <sup>3</sup> (平積0.6 m <sup>3</sup> )吊能力2.9 t			
		岩塊・玉 石	標準型・ICT施工対応型クレーン 機能付き・超低騒音型・排出ガ ス対策型(2014年規制)山積0.8 m <sup>3</sup> (平積0.6 m <sup>3</sup> )吊能力2.9 t	m <sup>3</sup>	174	141

(正) (欄を削除)

**(訂正箇所)** 下巻 1880 ページ ICT 活用工事(小規模土工) 試行積算要領 【参考】 7

(7) 表中規格欄3段目

(誤) 後方超旋回型・**超低騒音型**・排出ガス対策型(第2次基準値)山積0.28 m<sup>3</sup>(平積0.2 m<sup>3</sup>)

(正) 後方超旋回型・排出ガス対策型(第2次基準値)山積0.28 m<sup>3</sup>(平積0.2 m<sup>3</sup>)

第1版 令和5年10月7日

**第2版** 令和5年10月10日

**第3版** 令和5年10月12日

**第4版** 令和5年10月23日